

## 連絡協議会委員（拠点病院を除く）への照会結果

所属団体	1. 委員の所属する団体で実施している説明会や研修会における、アレルギー疾患に関する内容の実施の有無	2. 委員の所属する団体における、アレルギー疾患に関する問題等
愛知県医師会	○第33回学校保健健診懇談会（別紙1参照） ○平成30年度学校保健シンポジウム（別紙2参照）	なし
愛知県病院協会	特に行っておりませんが、一般向け講演会のなかでアレルギーのことが演題になったことが以前あったような記憶があります。	なし
愛知県薬剤師会	愛知県薬剤師会 妊婦・授乳婦医薬品適正使用推進研究班で開催している多職種向け研修会「あいち・くすりフォーラム」中のテーマとして、 「アレルギー疾患と授乳について」と題して講演を行った実績有（平成28年2月） （平成28年2月7日開催、第8回あいち・くすりフォーラム「妊娠・授乳中のくすりと母と子の健康」 テーマ：妊娠・授乳と免疫疾患、講演2本中の1本）	団体としての問題ではないが、当会のお薬相談でもアレルギー疾患の妊婦・授乳婦からの相談が多々寄せられていることから、 <b>多くの母親が妊娠・授乳中の薬の使用について、インターネット等で情報が氾濫している中、不安を抱えていることが推察される。</b> また、 <b>薬局での服薬指導時にアレルギーに関する情報を正確に把握することも重要</b> なことでありと認識している。
愛知県看護協会	なし	なし
愛知県栄養士会	10月20日（土） 「愛知県健康づくり提唱のつどい」にて講演実施 ・講演Ⅰ 「食物アレルギーの復習と予習～交差反応〔食品×〇〇〕や食べる以外についても～（別紙3参照） 管理栄養士 江川 美晴 先生 ・講演Ⅱ 「食物アレルギーとプロバイオティクス」（別紙4参照） ヤクルト中央研究所 安全性研究所安全性第二研究室 室長 角 将一 先生	なし
愛知県市町村保健師協議会	なし	○分かりやすい相談先の周知 食物アレルギーについて活動している団体代表より、相談がありました。 <b>厚生労働省がアレルギーに関わる「アレルギーポータルサイト（<a href="https://allergyportal.jp/">https://allergyportal.jp/</a>）」をたちあげたので情報が必要な人に伝えてほしい。</b> また、電話相談（アレルギー学会に委託）はできるだけ重症事例で保護者が困っているケースを対象にしているようで、 <b>一般的なアトピーなどの相談は地域の保健センターやかかりつけ小児科医、皮膚科など地域の医療相談で相談を受けて欲しいと言われた</b> とのこと。 よって、相談者は自身が軽度か重症か分からないので、 <b>症状等で相談窓口を分ける、分かりやすい相談先の周知などの検討が必要</b> ではないでしょうか。 ○災害時のアレルギー対応について 災害時のアレルギー対応、備蓄品についてなど、自治体向けの研修があると良いと思います。
愛知県社会福祉協議会保育部会	愛知県社会福祉協議会保育部会では、ここ10年、アレルギー疾患に関する内容の研修は行っていません。 ご参考までに、保育所関係の上部団体である全国保育協議会において、「平成30年度保育所・認定こども園 保健衛生専門研修会（平成30年6月8日～9日東京都内）」で「保育現場におけるアレルギー対応と実践」（別紙5参照）をテーマに、講師に「あいち小児保健医療総合センター 副センター長兼総合診療科部長 伊藤 浩明氏」をお迎えし、講義をいただいた実績があります。	個別の配慮が必要なアレルギーのある子どもが増加傾向にある中、 <b>最新の正しい知識の習得とアレルギー対応について学ぶ機会が増えることが望まれています。</b>
中京大学スポーツ科学部	学部必須授業である「健康学概論」において気管支喘息と食物アレルギーに関する授業をそれぞれ1コマずつ実施しています。	愛知県内における <b>大学・短期大学を対象に食物アレルギー対応に関する調査を行ったが、かなり貧困な実態</b> が明らかになりました。
東海アレルギー連絡会	○アレルギー患者家族の交流会・・・東海地域で活動する約40の患者会（アレルギー児の親の会）（愛知県内は約20団体）の事務局として年に34回交流会と総会を開催し、給食や災害対策等に関する問題点をだし解決策を検討したり、子育てや会の運営等の悩みを共有したりしている。  ○研修会・勉強会の開催・・・専門家を講師に招き、災害対策の勉強や調理実習等を行っている。  ○患者会のリーダーが、アレルギー支援ネットワークの開催する「アレルギー大学」を受講し、正しい知識と最新の医療情報の習得につとめ、各患者会の運営に役立っている。	○患者家族が、それぞれの居住する市町において、 <b>出産後にアレルギーに関する知識を得る場が少なく、インターネット上の情報収集に頼ることが多い</b> ため間違った情報や古い情報に惑わされている。（ <b>乳児検診の場で広く一般市民に情報提供をする必要性を感じている。</b> ） ○アレルギー専門医が不在の市町の患者家族は、遠くの医療機関まで通って、経口負荷試験をしたり、管理指導表（診断書）を入手したりしている。 ○ <b>アレルギーで困ったときに相談でき、的確なアドバイスをしてくれる窓口が市町に無い。</b>
教育委員会 保健体育スポーツ課健康学習室	<b>【養護教諭向け】</b> ○学校における食物アレルギー対応の共通理解と救急体制の確立 ○食物アレルギーを有する児童生徒の健康管理における保護者との連携について ○食物アレルギーに関する危機管理体制についての調査結果報告について <b>【栄養教諭・栄養職員向け】</b> ○学校における食物アレルギー対応に関する栄養教諭の果たす役割について ○食物アレルギー対応に関する市町村教育委員会や学校の果たす役割について ○食物アレルギー対応におけるヒヤリハット事例の検証と再発防止について	アレルギー疾患に関する <b>保護者の理解と協力が得られない場合がある</b> こと

## 第33回学校保健健診懇談会

開催日時：平成31年1月19日（土）14：00～16：30

場 所：愛知県医師会館9階大講堂 名古屋市中区栄4-14-28

取得単位：日本医師会生涯教育講座対象2単位

(9 医療情報 15 臨床問題解決のプロセス 各1単位)

- 1 開会挨拶 (14：00～) 公益社団法人愛知県医師会会長 榎木 充明
- 2 来賓挨拶 (14：05～) 愛知県教育委員会保健体育スポーツ課健康学習室室長 加藤 吾郎
- 3 定例報告 (14:10～15:10)
- 座 長：公益社団法人愛知県医師会学校健診委員会委員長 平 光 伸 也  
(1人 発表10分：質疑5分)
- ①「平成30年度心電図精度管理実施報告」 (14：10～14：25)  
名古屋大学大学院医学系研究科成長発達医学准教授 加 藤 太 一
- ②「愛知県における学校検尿の現状2018」 (14：25～14：40)  
名古屋学芸大学ヒューマンケア学部教授 都 築 一 夫
- ③「愛知県下の小中学校における食物アレルギー・  
アナフィラキシー対応の現状」 (14：40～14：55)  
あいち小児保健医療総合センター副センター長 伊 藤 浩 明
- ④「愛知県小児腎臓病専門施設における、  
学校検尿有所見者の調査結果—17年度—」 (14：55～15：10)  
名古屋第二赤十字病院小児腎臓科部長 後 藤 芳 充
- 4 休憩 (15：10～15：20)
- 5 特別講演 (15：20～16:25)  
「学校心臓検診に関わる児童生徒での正常心電図所見」
- 講師：医療法人社団永泉会曙町クリニック 理事長 泉 田 直 己  
座長：公益社団法人愛知県医師会学校健診委員会委員 長 嶋 正 實
- 6 閉 会 (16：25) 公益社団法人愛知県医師会副会長 杉 田 洋 一

主催 公益社団法人愛知県医師会

## 平成30年度 学校保健シンポジウム

日時 平成31年3月3日(日) 13:30~16:30  
 場所 愛知県医師会館9階大講堂(名古屋市中区栄4-14-28)  
 主催 公益社団法人 愛知県医師会  
 後援 愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会(予定)  
 対象 医師会員、愛知県下の学校医、学校長等学校管理職、保健主事及び養護教諭、  
 その他学校保健関係者  
 取得単位 日本医師会生涯教育講座対象2.5単位(予定)

開 会 (13:30~13:35)

公益社団法人愛知県医師会学校保健部会副部長 額 額 雅 明

挨拶 (13:35~13:45)

公益社団法人愛知県医師会会長 榑 木 充 明

愛知県教育委員会保健体育スポーツ課健康学習室室長 加 藤 吾 郎

特別講演 (13:45~14:45)

座 長 公益社団法人愛知県医師会学校保健部会副部長 細 川 秀 一

演 題 「学校における心肺蘇生・AEDの有用性についてー全国調査の結果から」

講 師 公益社団法人愛知県医師会学校保健部会幹事

社会福祉法人恩賜財団済生会

愛知県済生会リハビリテーション病院 名誉院長 長 嶋 正 實

定例報告 (14:45~15:00)

「平成29年度の学校管理下における災害発生の現況」

独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全部名古屋業務推進課課長 軽 海 健

シンポジウム (15:00~16:25)

テーマ「学校におけるアレルギー対応の現状と課題」

公益社団法人愛知県医師会学校保健部会幹事 佐 藤 祐 造

あいち小児保健医療総合センター副センター 伊 藤 浩 明

(各15分)

1. 「愛知県下の小中学校における食物アレルギー対応について」 (15:05~15:20)

愛知県教育委員会保健体育スポーツ課健康学習室指導主事 杉 野 由 起 子

2. 「アレルギー患者からみた学校給食対応の現状について」 (15:20~15:35)

あいち小児保健医療総合センターアレルギー科管理栄養士 中 里 友 美

3. 「学童期の牛乳除去による骨密度への影響について」 (15:35~15:50)

名古屋学芸大学管理栄養学部助教 榑 村 春 江

4. 「学校におけるアナフィラキシー誘発事例と」 (15:50~16:05)

アドレナリン自己注射薬の使用状況について」

あいち小児保健医療総合センター副センター長 伊 藤 浩 明

討 議 (20分) (16:05~16:25)

総括/閉会 (16:25~16:30)

公益社団法人愛知県医師会学校保健部会部長 杉 田 洋 一

## 健康づくり提唱のつどい

### 食物アレルギーの復習と予習

～交差反応[食品×○○]や食へる以外についても～

管理栄養士 江川 美晴

## アレルギーの原因

- ほこり 
- ダニ 
- 花粉 
- 動物の毛・フケ 
- 食べ物 

## アレルギーとは

### 免疫

①病原体が体内に入る

②病原体に対して主にIgG抗体が作られる

③再度、病原体が体内に入る

抗体が病原体を攻撃し、病気の発生を防ぐ！

### アレルギー

①アレルゲンが体内に入る

②アレルゲンに対して主にIgE抗体が作られる

③再度、アレルゲンが体内に入る

抗体と抗原が反応し、マスト細胞から化学伝達物質が放出され、アレルギーをおこす！

出典：「よくわかる食物アレルギー」312頁、137頁、270頁

## 食物アレルギーとは

### 免疫細胞

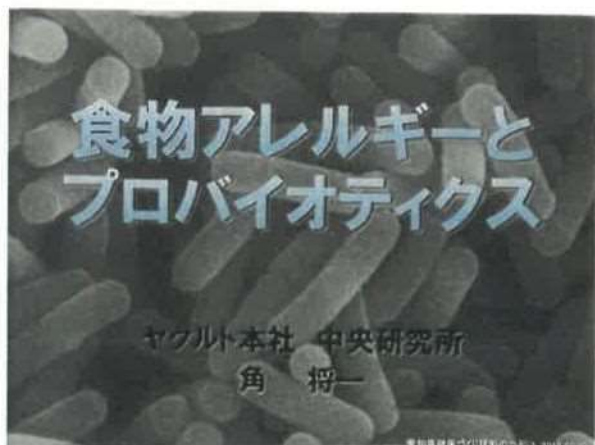



### 病原体





悪くないのに...




---

---

---

---

---

---

---

---




---

---

---

---

---

---

---

---

### 腸内フローラ: ヒトと共生する微生物生態系

**腸管**

- 食べ物を消化吸収
- 口から肛門までの長さは、約9m。
- 食べ物は、口に入ってからこの道のりを約24～48時間かけて移動する。

**腸内細菌**

- ヒト1人当たり、1,000種、100兆個。
- 便のおよそ10%

**腸内フローラ**

腸内細菌の集団を全体として捉えた時の呼称。

「フローラ=花畑」

愛知県健康づくり提唱のつどい 2018.10.20

---

---

---

---

---

---

---

---

～健やかに子どもを育むために～

# 平成30年度 保育所・認定こども園 保健・衛生専門研修会

## 開催要項

### 本研修会の 特色

- 子ども・子育てをめぐる今日的課題を学ぶ
- 保健・衛生に関する最新の動向について理解を深める
- 家庭や関係機関との連携のあり方について学ぶ

① 趣 旨 --- 保育所・認定こども園等や乳児院では、すべての子どもの発達過程に対応した健康で安全な生活と、その環境整備を図ることが求められています。平成30年4月1日に改定施行された保育所保育指針では、「職員は衛生知識の向上に努めること」との記述が追加されました。子どもの健やかな育ちのため、感染症の知識や対応に加え、さまざまな傷害や事故の防止対策、個別の配慮を要するアレルギーへの対応等、それぞれの状況に応じた適切な支援が不可欠です。また、配慮を要する子どもや保護者への支援等、保育所・認定こども園等や乳児院に求められる役割はますます増大しています。本研修会では、子ども・子育てをめぐる今日的課題や、保育実践等において必要な保健・衛生に関する知識の理解につなげるとともに、家庭や関係機関との連携等についても学びます。

② 主 催 --- 社会福祉法人 全国社会福祉協議会・全国保育協議会／全国保育士会  
〔実施主体 全国保育協議会〕

③ 後 援 --- 日本保育保健協議会、全国乳児福祉協議会

④ 期 日 --- 平成30年6月8日(金)～9日(土)

⑤ 会 場 --- 東京ベイ幕張ホール(JR京葉線 海浜幕張駅 徒歩10分)

⑥ 対 象 --- (1) 保育所・認定こども園の長、保育士・保育教諭、看護師、栄養士、調理員、子育て支援センター職員等  
(2) 乳児院の関係者

⑦ 参加費 --- 会員：14,000円 会員でない方：19,000円  
(昼食・宿泊費は含みません)

⑧ 定 員 --- 500名

⑨ 締 切 --- 平成30年5月11日(金)〔定員になり次第、締切とさせていただきます〕

⑩ 日 程

6/8 金	10:00	11:00	11:15	12:15	13:15	15:00	15:15	17:00
	受付	開会式	行政説明 (厚生労働省)	昼食	「感染症への理解と対応」 (菅原 民枝氏)	休 息	「保育現場の保健・衛生にかかわる 安全整理・安全確保について」 (遠藤 登氏)	
6/9 土	9:30	12:30	13:30	15:15				
	「保育現場におけるアレルギー対応と実践」 (伊藤 浩明氏)		昼食	「保育現場における配慮を要する 子どもや課題をもつ保護者への 支援」(小川 亨氏)		閉 会		



プログラム

【第1日目】 6月8日(金)

時 間	内 容
10:00 11:00 11:00~11:15(15分)	受付開始 開会 開会あいさつ、オリエンテーション
11:15~12:15(60分)	<b>行政説明 厚生労働省 子ども家庭局 保育課(予定)</b>
12:15~13:15(60分)	昼食・休憩
13:15~15:00(105分)	<b>「感染症への理解と対応」</b> 感染経路が少なく、体力・免疫力ともに十分でない乳幼児にとって、保育所・認定こども園等は初めての集団生活の場であることから、起こりやすく広がりやすい感染症に対する備えはとくに重要です。 保育所・認定こども園等における感染症対策としての基礎知識や予防のポイント、最新の感染症情報、有効な対策等について学びます。 講師：菅原 民枝 氏 (国立感染症研究所 主任研究官)
15:00~15:15(15分)	休憩
15:15~17:00(106分)	<b>「保育現場の保健・衛生にかかわる安全管理・安全確保について」</b> 日々の保育においては、子どもの主体的な活動を尊重して支援する必要があり、子どもが成長していく過程で怪我が一切発生しないことは現実的には考えにくいものです。子どもの安全確保のためには、研修や訓練をととした職員の資質の向上を図ることや、緊急時の対応体制の確立をしておくこと等、日頃からの取り組みが重要です。 アレルギーや感染症、食中毒、誤飲誤嚥、熱中症等、日常保育における保健・衛生にかかわる、さまざまな事故を予防し、リスクを最小限に抑えるための危機管理の考え方や、また、リスクマネジメントにおいて効果的な園内コミュニケーション等を学びます。 講師：遠藤 登 氏 (保育応急救護協会 代表)

【第2日目】 6月9日(土)

時 間	内 容
9:30~12:30(180分)	<b>「保育現場におけるアレルギー対応と実践」</b> 安全で安心な生活が送れることを前提に、食物アレルギーのリスクを踏まえた対応と最新の正しい知識を職員全員が共通して理解することが重要です。アレルギーのある子どもが増加傾向にあるなか、もしもの時のアレルギー対応や、日頃の実践について学びるとともに、エビベン練習用トレーナーを使用した演習も行います。 講師：伊藤 浩明 氏 (あいち小児保健医療総合センター 副センター長 兼 総合診療科部長)
12:30~13:30(60分)	昼食・休憩
13:30~15:15(105分)	<b>「保育現場における配慮を要する子どもや課題をもつ保護者への支援」</b> 配慮を要する子どもや、発達障害のある子どもが園に在籍することは、多くの園で見られる光景です。保育所・認定こども園等は、子どもが日々の生活や遊びをとおしてともに育つ場所であり、すべての子どもの健やかな育ちを支援するため、障害のある子どもや特別な配慮を要する子どもへも、保護者や関係機関と密接に連携しながら、保育を行っていくことが重要です。 配慮を要する子どもの特徴や、気になる行動をとる理由を理解するとともに、課題をもつ保護者に対して、保育者としてどのように寄り添い、支援するべきかについて学びます。 講師：小川 淳 氏 (横浜市総合リハビリテーションセンター センター長)
15:15	閉会

「保育活動専門員」認定制度について

全国保育協議会・全国保育士会では、平成19年度より、対象となる大会・研修会を一定回数以上受講し、レポートを提出した方に対して「保育活動専門員」認定証を発行しています。これまでに1,555名の方が「保育活動専門員」として認定され、全国各地の保育現場で活躍されています。

本研修会を受講された方に発行される受講証明書(2日目プログラム終了後に発行)には、認定証の申請に必要な研修ポイント(200ポイント)が記載され、申請時に活用できます。認定証の取得をめざし、本研修会への多くの皆さまの参加をお待ちしています。

※認定制度に関する詳細については、会報「ぜんぽきょう」4月号(平成30年4月1日発行号)に同封の実施要項をご覧ください(全保協ホームページでもご覧いただけます)。